

# 防災地域建設委員会資料

- 1 令和9年度 国の施策及び予算編成等に係る重点要望について
  - (1) 提案・要望項目、内容 ……別途
  - (2) 説明資料 ……P 1
- 2 報告事項
  - (1) 中東情勢の変化等を踏まえた建設事業の予算上の対応等について ……P25
  - (2) 浜山公園野球場改修工事の完成について ……P26
  - (3) 大規模下水道管路の全国特別重点調査の結果について ……P27

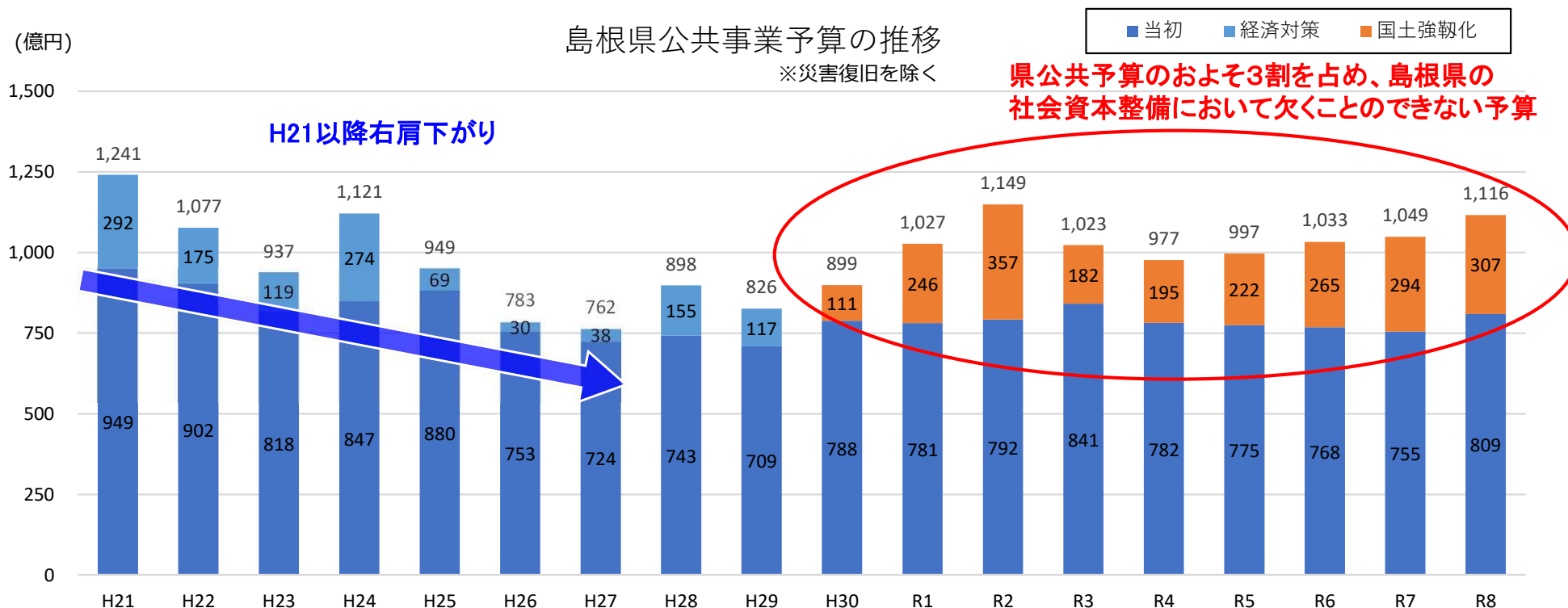
令和8年5月19日

土木部

# 1. 国土強靱化施策の更なる加速化・深化による地方の事業実施の推進 (島根県における公共事業予算の推移)

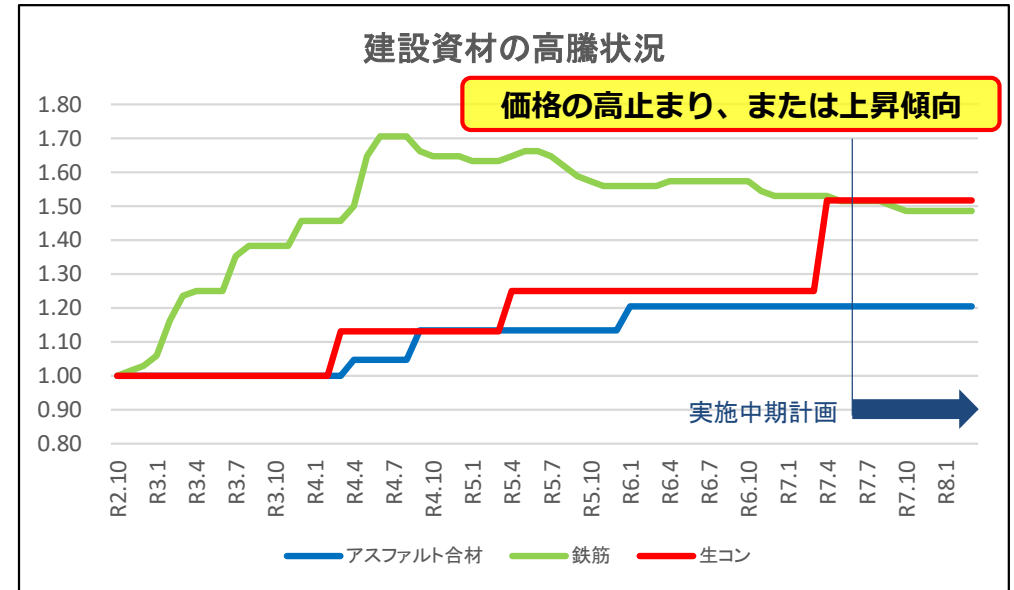
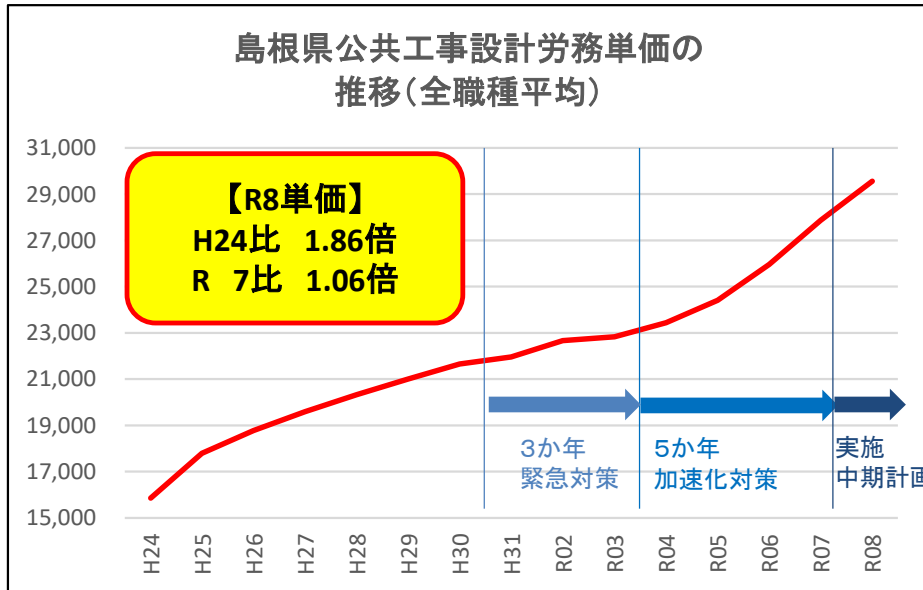
- ◆ 激甚化・頻発化する大雨災害やいつ起こるか分からない地震災害への備えなど、安全・安心な暮らしを守り、地域振興を支えるため、必要な社会資本整備を進めることができるよう、おおむね20兆円強を事業規模とされた「第1次国土強靱化実施中期計画」を踏まえ、通常予算とは別枠で予算を確保すること。
- ◆ 国における予算編成の抜本的な見直しにあたり、補正予算に代わり当初予算で措置を検討する事業等については、補正予算に準じた地方財政措置を講じること。

- 島根県公共事業予算において、国土強靱化予算はおよそ3割を占めており、予算の安定的な確保が非常に重要
- 交付金の重点配分対象や個別補助事業の採択要件の拡充等により柔軟な事業実施を可能とすることで、必要な事業が多く残された地方に重点配分することが重要



# 1. 国土強靱化施策の更なる加速化・深化による地方の事業実施の推進 (資材高騰等の影響)

◆おおむね20兆円強を事業規模とされた第1次国土強靱化実施中期計画を踏まえ、通常予算とは別枠で予算を確保するとともに、高騰が続く資材価格や労務費を適切に反映した規模とすること。



○工事費への影響

積算例：砂防堰堤工事



	①R7.3月	②R8.3月	比較 ②÷①×100
工事費計(税込)	57,010	63,699	112%

**R7. 6月**  
「第1次国土強靱化実施中期計画」閣議決定

○労務費が上昇し、資材価格も高止まりまたは上昇傾向にある。これに伴い工事費用は、

**強靱化実施中期計画策定前から1.12倍**

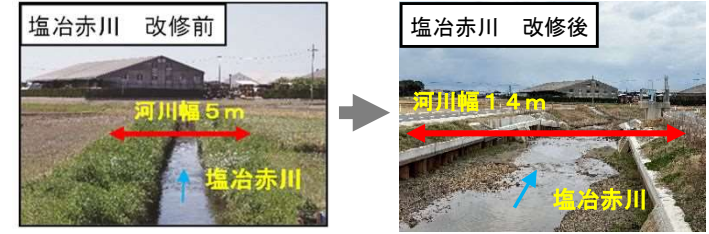
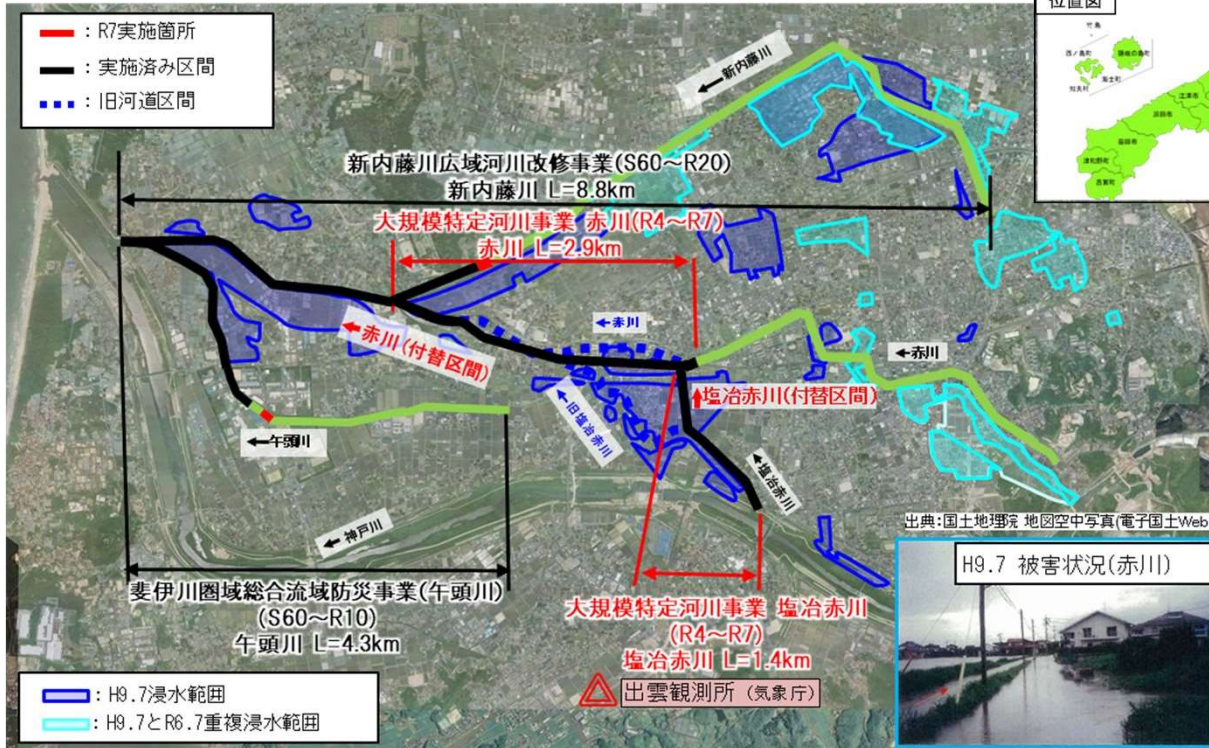
になっている。  
今後も労務単価及び資材価格における変動に伴い、工事費用の上昇が見込まれる。

また、中東情勢の緊迫化により、資材価格が更に高騰するなどの支障が生じている。

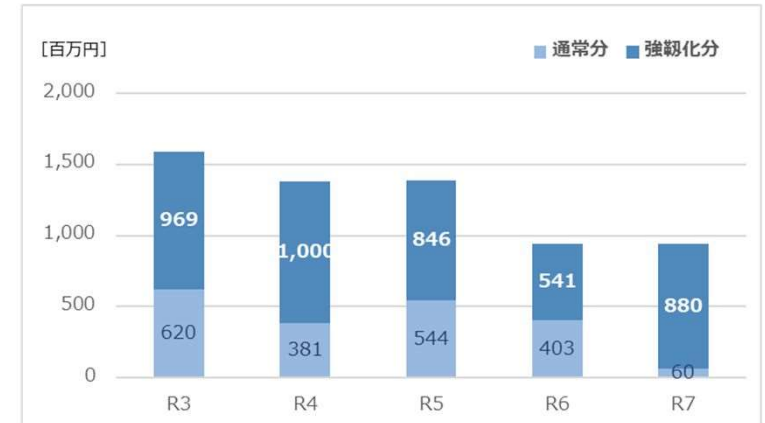
# 1. 国土強靱化施策の更なる加速化・深化による地方の事業実施の推進 (治水対策)

国土強靱化予算による治水対策により、家屋浸水被害が減少

出雲市街地が大規模浸水したH9出水を上回る降雨においても家屋浸水被害が大幅に減少

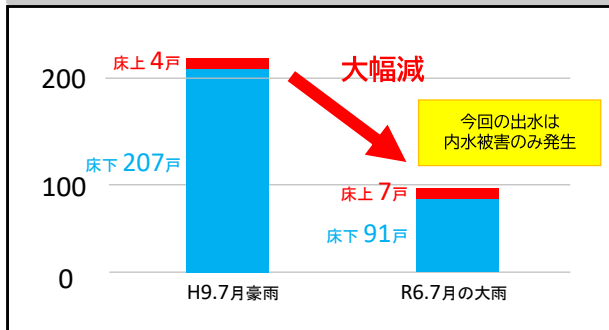


河川事業の予算推移(斐伊川水系新内藤川流域)

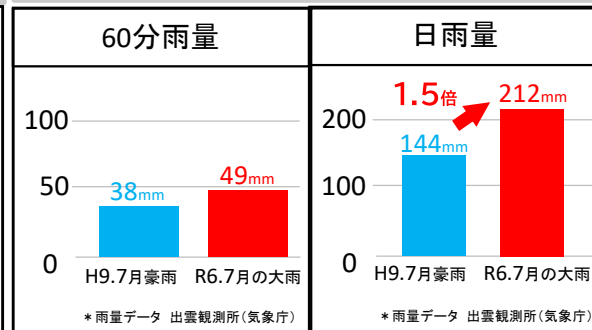


国土強靱化予算の活用により大幅に事業が進捗

## 治水効果



## R6.7.9降雨量と過去との比較



## 今後も強靱化予算による治水対策推進が必要

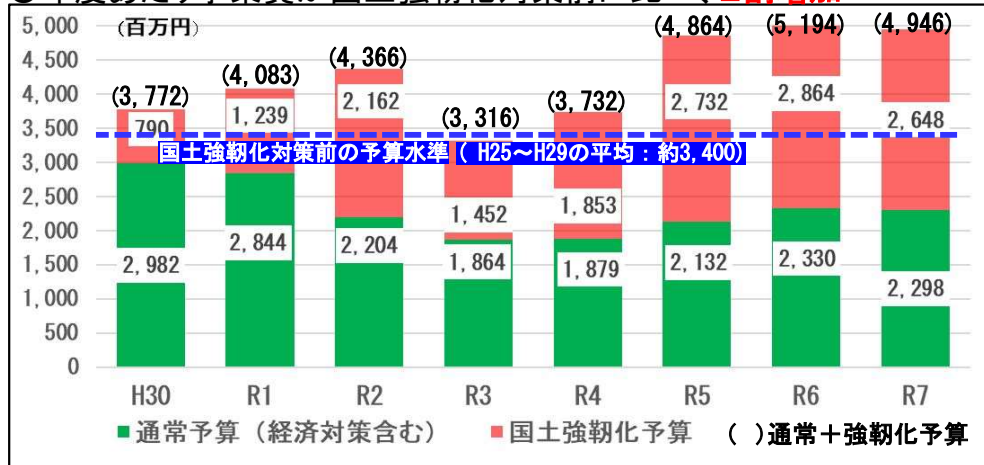
令和6年7月大雨による浸水状況



# 1. 国土強靱化施策の更なる加速化・深化による地方の事業実施の推進 (土砂災害対策)

国土強靱化予算を最大限に活用し、土砂災害対策を推進

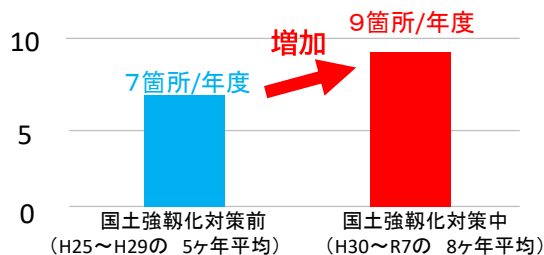
○年度あたり事業費が国土強靱化対策前に比べ、**2割増加**



○年度あたり完了箇所も  
国土強靱化対策前に  
比べ、**増加**

○県土の**安全度がより  
高められた**

## 年度あたりの完了箇所数



## 国土強靱化対策期間に完成した主な施設



西の谷川 砂防事業(益田市)  
【人家7戸、小学校(避難所)、国道、JR等の保全】



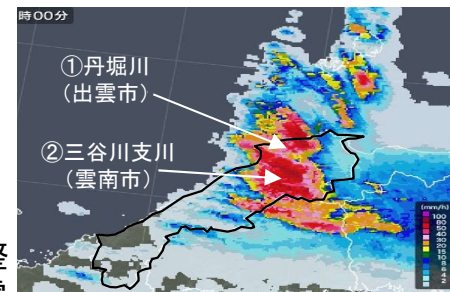
唐井地区 急傾斜地崩壊対策事業(隠岐の島町)  
【人家16戸、町道の保全】

## 砂防施設の整備効果

○令和3年7月豪雨では、島根県東部を  
中心に総雨量400ミリを超える箇所も  
発生

○整備されていた箇所①(丹堀川:出雲  
市)では、砂防えん堤が土石流を捕捉  
し、**下流の人家を保全**

○①から約25km離れた砂防えん堤が整備  
されていない箇所②(三谷川支川:雲  
南市)では**土石流により家屋が埋塞**



R3年7月12日の雨雲レーダー

### 【砂防えん堤が整備済み】

①丹堀川(出雲市国富町)  
令和3年7月の豪雨により土石流が発生、  
砂防えん堤が土砂を捕捉し下流の人家35  
戸を守った



### 【砂防えん堤が未整備】

②三谷川支川(雲南市吉田町)  
令和3年7月の豪雨により土石流が発生、砂  
防えん堤が未整備であったため人家が埋塞  
(災害関連緊急砂防事業により砂防えん堤  
を整備。令和6年3月竣工)



○島根県内には多くの未整備  
箇所が存在

○**予算の確保が重要**

○**強靱化予算の活用により、  
施設整備の進捗が図られる**

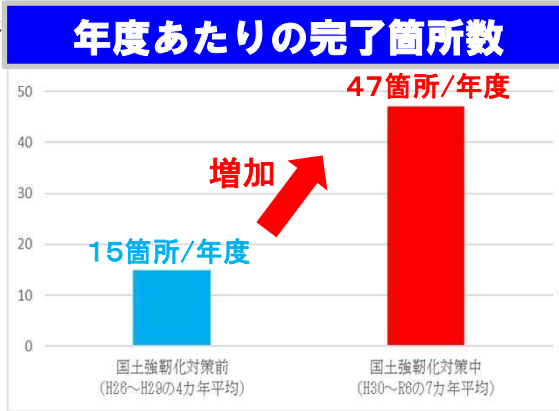
# 1. 国土強靱化施策の更なる加速化・深化による地方の事業実施の推進 (落石対策ほか)

## 落石対策により被害を未然防止

●平成28年5月(主)浜田作木線(邑智郡邑南町)で落石による死亡事故が発生

○年度あたりの事業費が国土強靱化対策前に比べ、4割増加

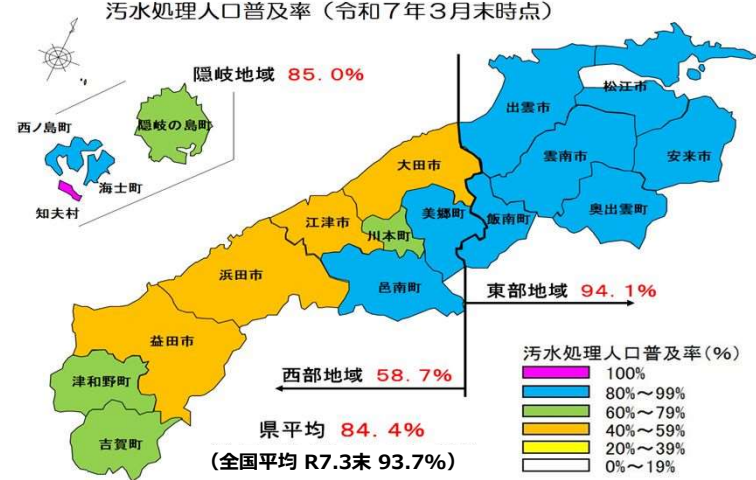
○年度あたり完了箇所も国土強靱化対策前に比べ、増加しており、道路の安全性が向上



○国道261号【第1次緊急輸送道路】令和6年5月13日~25日の12日間にかけて全面通行止めとなり、住民は64kmの迂回を強いられた

○(一)佐田八神線平成30年4月9日~7月6日の88日間にかけて全面通行止めとなり、住民は22kmの迂回を強いられた

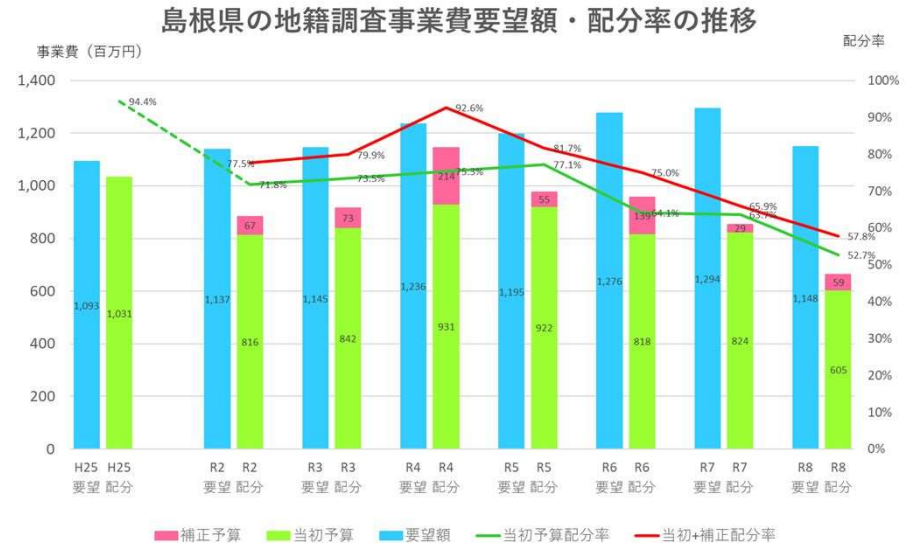
## 汚水処理人口普及率の低い県西部地域の未普及対策が必要



➤ 都市部からのUIターンを決断されるときに、下水道や浄化槽の完備は重要な条件のひとつ

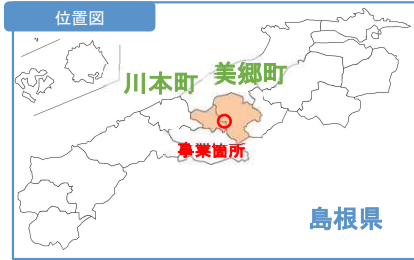
## インフラ整備の円滑化のためには地籍調査の促進が必要

➤ 令和7年度末の島根県の調査の進捗率は54.5%  
➤ 令和8年度当初予算配分額は市町要望額の52.7%



# 1. 国土強靱化施策の更なる加速化・深化による地方の事業実施の推進 (道路整備)

## 中山間地域における災害リスクを軽減



旧道は道幅が狭く、毎日怖い思いをしていました。また、今まで何度も江の川が溢れ、その度に隣町との往来すら、ままならない状況でした。今では以前よりも安心して移動できるようになりました。

残りの区間についても早く完成することを期待しています！

バイパス整備により災害時でも安定的な交通を確保



全面通行止め期間  
 平成30年7月豪雨：71時間  
 令和2年7月豪雨：178時間  
 令和3年8月大雨：75時間

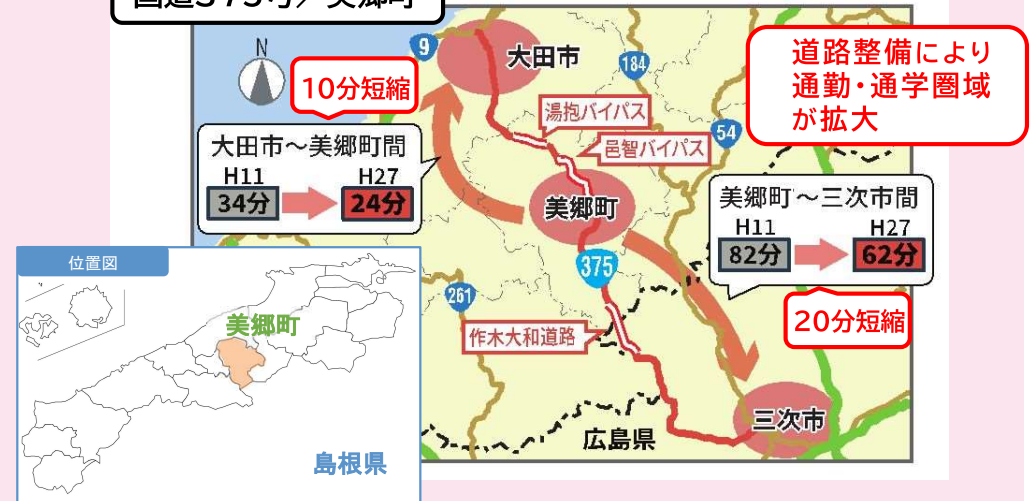


令和3年8月の大雨における旧道の冠水状況

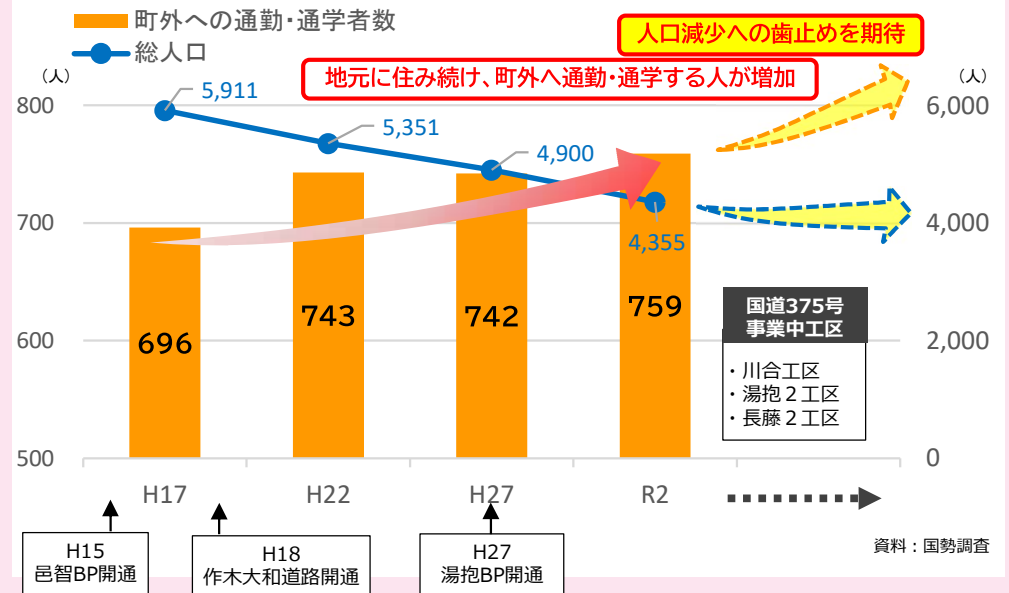


## 通勤・通学圏域の拡大により人口減少を抑制

### 国道375号/美郷町



### 美郷町 町外への通勤・通学者数と総人口の推移



# 1. 国土強靱化施策の更なる加速化・深化による地方の事業実施の推進 (老朽化対策・道路の事例)

## インフラの健全性確保のため老朽化対策の促進が必要

### 老朽化に伴う施設の損傷事例(橋・トンネル等の構造物)

#### ○道路橋(主桁下面の剥離・鉄筋露出)



平成29年度点検:健全度Ⅲ  
(一)八重垣神社八雲線(中組橋)

#### ○トンネル(覆工部の浮き)



平成28年度点検:健全度Ⅲ  
(主)浜田八重可部線(坂本トンネル)

### 老朽化に伴う事故の発生(道路照明・道路標識等の道路附属物)

#### ○道路照明の倒壊



・令和7年1月発生(出雲市大津町)  
・道路照明柱が強風で倒壊し、  
集団登校中の児童1名が負傷

#### ○道路案内標識の転倒



・令和8年2月発生(隠岐郡隠岐の島町)  
・道路案内標識の転倒

#### ○舗装の路面陥没

・令和7年7月発生  
(出雲市知井宮町)  
・大社立久恵線  
歩道内で確認

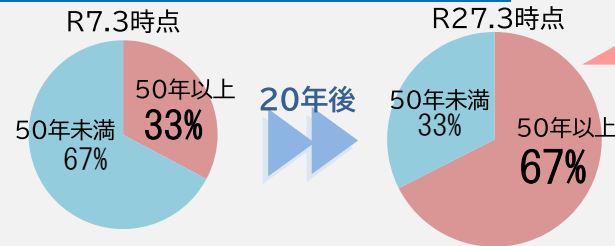


道路附属物の老朽化に伴う事故が連続して発生

⇒ 道路附属物のメンテナンスの強化が必要

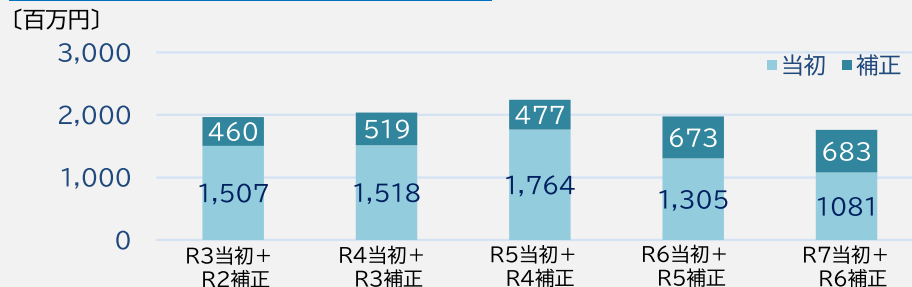
## 対策完了に向けた予算確保が必要

### 建設後50年を経過した道路施設の割合



20年後には急速に高齢化が進行

### 老朽化対策事業費の推移

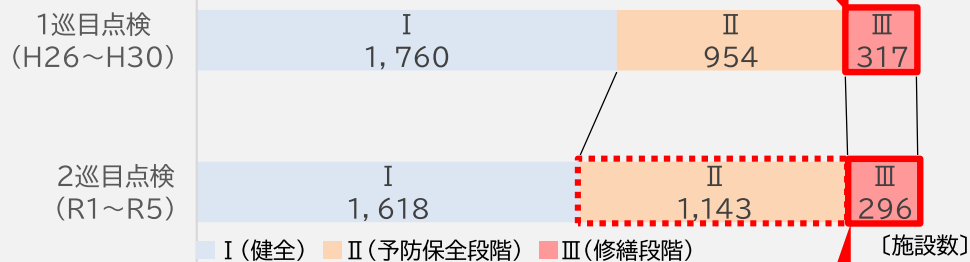


## 対策完了に向けた予算確保が必要

### 定期点検結果 ※道路施設(橋梁、トンネル、道路附属物等)

国土強靱化予算を活用し、老朽化対策を推進

1巡目点検修繕完了率(H30年度:19%⇒R6年度:94%)



要修繕箇所(Ⅲ)を早期に解消し、  
予防保全段階(Ⅱ)の対策も実施していく

## 2.山陰道や境港出雲道路（8の字ルート）をはじめとする地方の道路整備の推進①

### 1.山陰道の早期全線開通、早期の開通見通し公表

### 2.暫定2車線区間の4車線化

- 進出企業数が、266社増加
- 製造品出荷額が、約5100億円増加

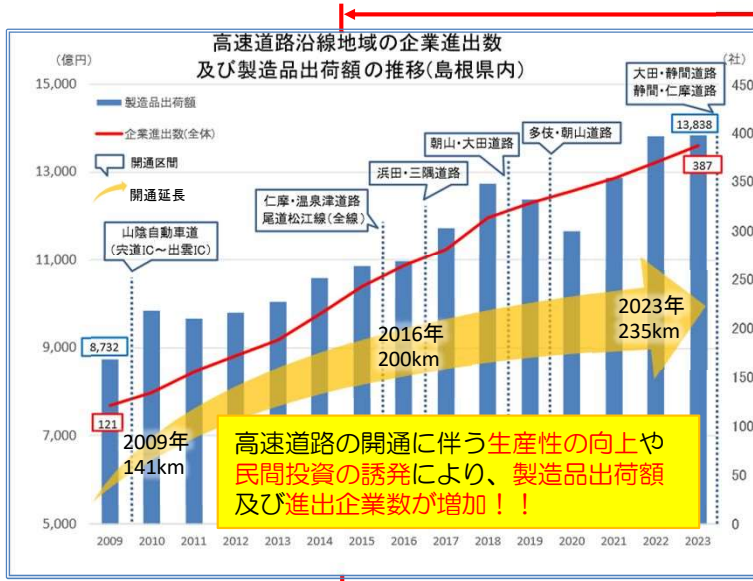
### 5.境港出雲道路の早期事業化

### 6.松江北道路の事業推進に必要な予算確保

### 3.国道9号出雲バイパスの全線4車線化

### 4.一般国道54号の防災対策

### 4.一般国道9号の防災対策



高速道路の整備状況

無料区間	区間	2車線	4車線
		■	■
有料区間	■	■	■
	■	■	■
	■	■	■

【地域の声】

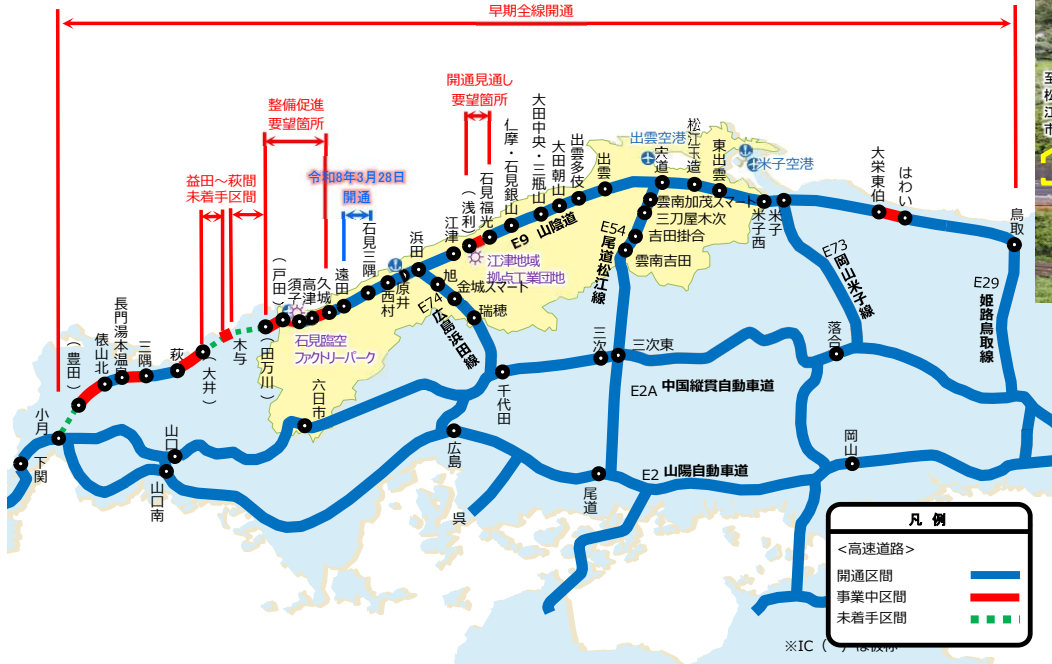
- 開通見込みがわかると計画的な設備投資計画につながるのありがたい。
- 山陰道の西伸については、九州方面からの受注拡大に好影響となることが予想される。現在使用している山陽方面へのルート(松江道)の迂回路としても期待している。注)R2業況調査



## 2.山陰道や境港出雲道路（8の字ルート）をはじめとする地方の道路整備の推進②

### ◆ 山陰道の整備状況

○全国のミッシングリンクの整備事業費を確保した上で、山陰道への予算の重点配分を行い「益田～萩間」を含む、早期全線開通を図ることが必要



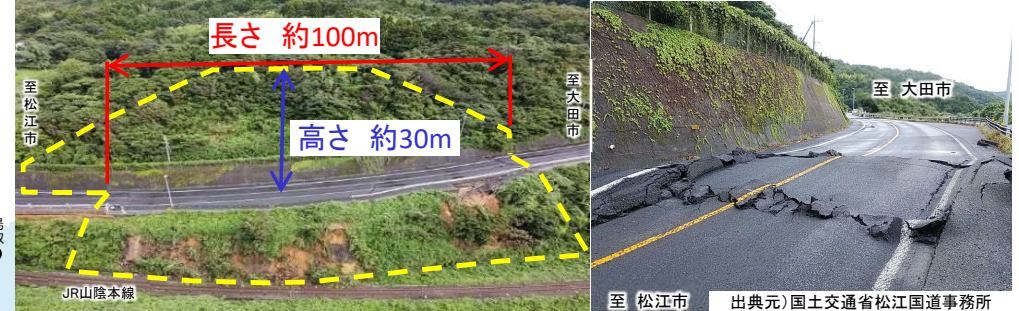
### 国道191号（益田～萩間）の課題（平成25年7月28日豪雨災害時状況）



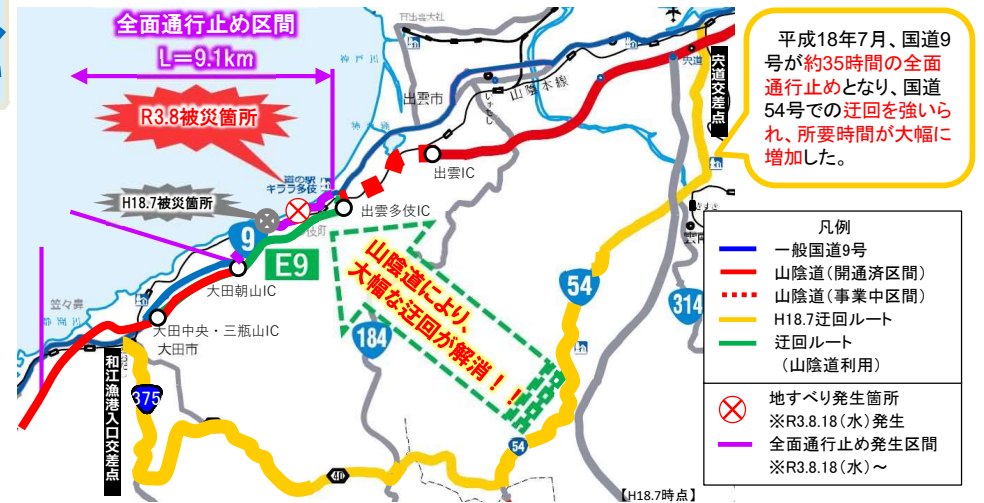
### ◆ 大規模災害時の代替路としての山陰道

～東西を結ぶ道路ネットワーク途絶の回避に貢献!!～

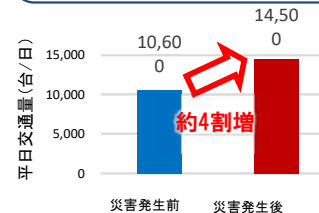
○令和3年8月の大雨により国道9号出雲市多伎町小田地内で大規模な地すべりが発生し、国道9号が全面通行止となった。(全面通行止め期間: 令和3年8月18日～令和3年10月18日)



### 山陰道がダブルネットワーク効果を発揮!!



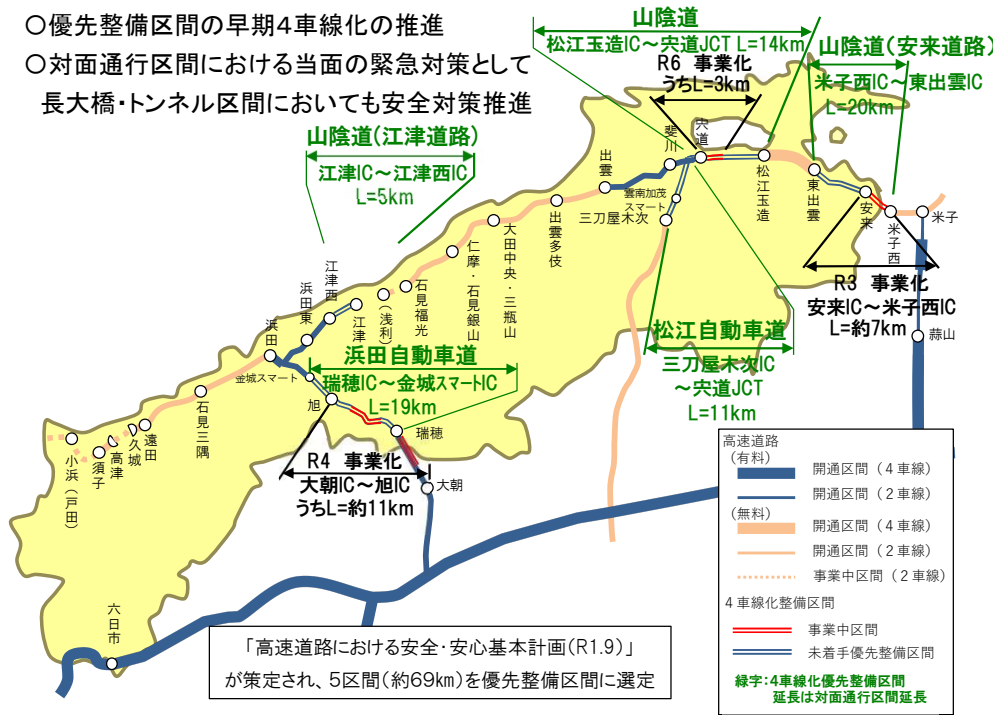
### 代替路としての機能を発揮!! (通行止め後山陰道の交通量が約4割増加)



## 2.山陰道や境港出雲道路（8の字ルート）をはじめとする地方の道路整備の推進③

### ◆ 高速道路（有料区間）の4車線化等の推進

- 優先整備区間の早期4車線化の推進
- 対面通行区間における当面の緊急対策として長大橋・トンネル区間においても安全対策推進



### ◆ 渋滞が著しい国道9号出雲バイパスの全線4車線化

一般国道9号出雲バイパスは、4車線で都市計画決定され、平成20年までに暫定2車線で開通した(一部4車線による供用)。しかし、地域の発展に伴い交通が集中し、朝夕を中心に慢性的な渋滞が発生しており、早期の全線4車線化が必要。



【神戸橋北方交差点付近】

【姫原高架橋付近】

出雲バイパスの渋滞状況

### 課題を解消し、安全・安心な高速道路に！

県内の開通済みの高速道路は8割以上が暫定2車線

#### ネットワークの代替性の確保



4車線化や付加車線整備が必要

#### 事故防止

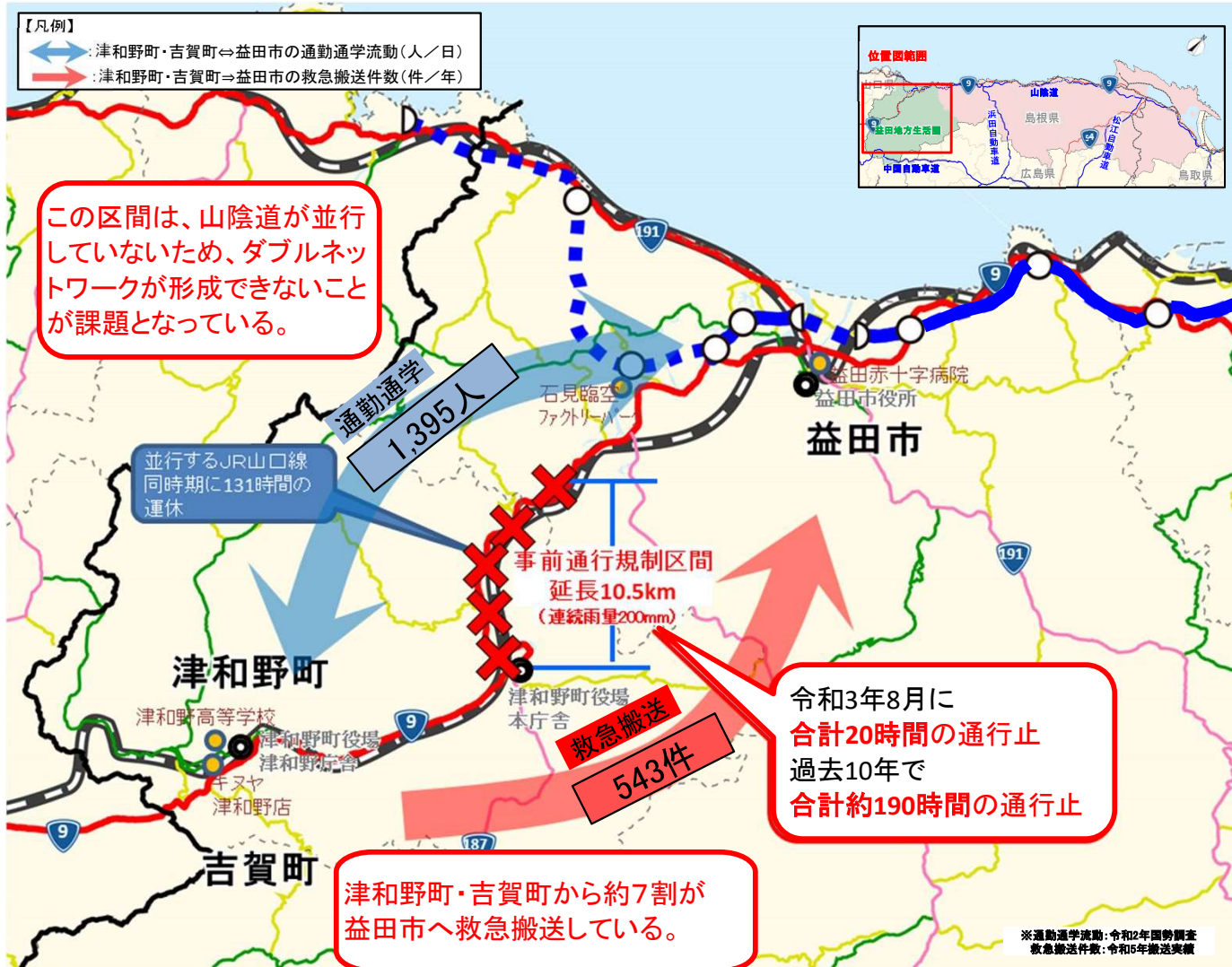


4車線化や長大橋・トンネル区間における安全対策が必要

## 2.山陰道や境港出雲道路（8の字ルート）をはじめとする地方の道路整備の推進④

### ◆ 一般国道9号(益田市神田町～津和野町枕瀬間) 防災対策

○一般国道9号は、重要物流道路及び第一次緊急輸送道路に指定されているが、益田市神田町から津和野町枕瀬間においては、連続雨量による事前通行規制区間があり、自然災害に対し脆弱な状況である。また、一級河川高津川に並走しており、視距がとれない急カーブや線形不良箇所が多く、当該区間の防災対策が必要。



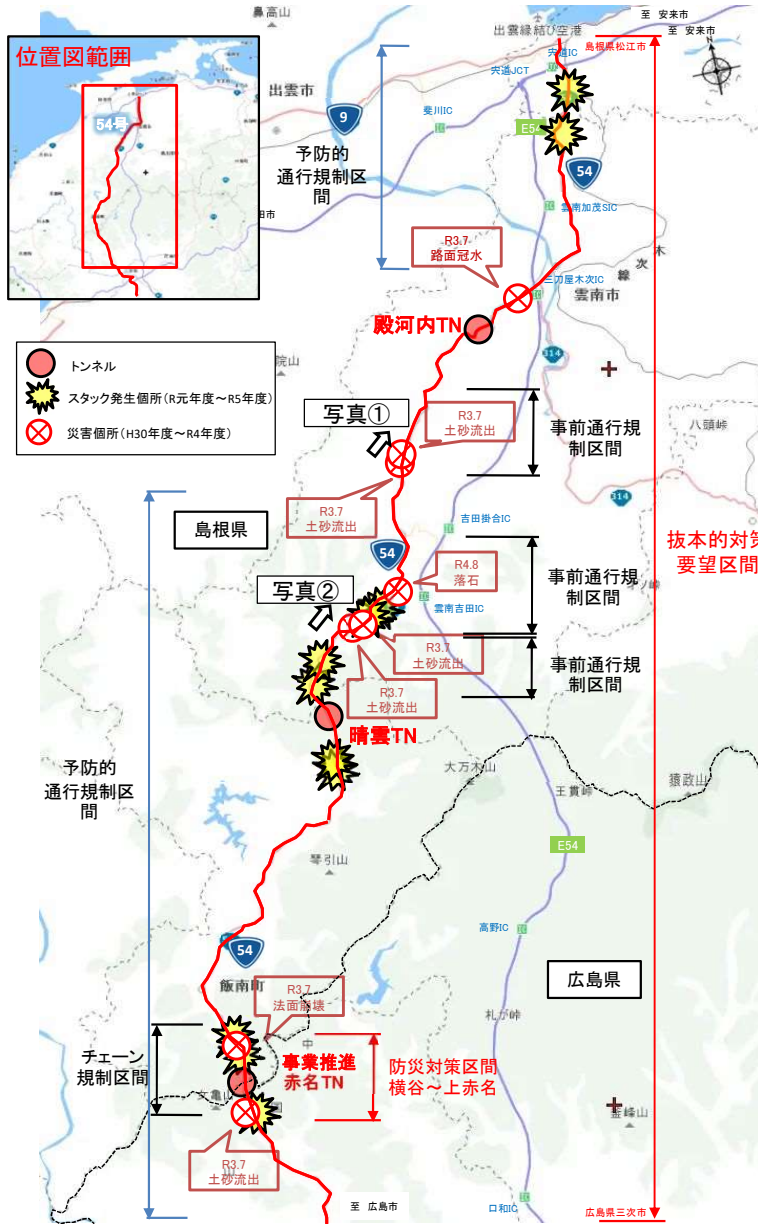
過去の通行止め発生状況

発生年月日	区間	規制時間	規制理由
H25.2.20	神田～枕瀬	150時間20分	法面崩落
H25.6.20	神田～枕瀬	3時間20分	事前通行規制
H25.7.28	神田～枕瀬	4時間35分	事前通行規制
R3.8.9	神田～枕瀬	9時間20分	事前通行規制
R3.8.14	神田～枕瀬	10時間40分	事前通行規制
R6.11.2	神田～枕瀬	7時間40分	事前通行規制
計		6回 (185時間55分)	

## 2.山陰道や境港出雲道路（8の字ルート）をはじめとする地方の道路整備の推進⑤

### ◆ 一般国道54号(広島県三次市～島根県松江市間) 防災対策

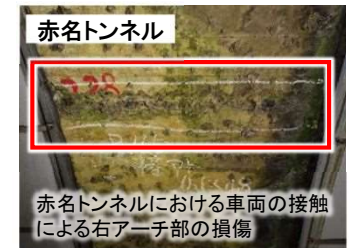
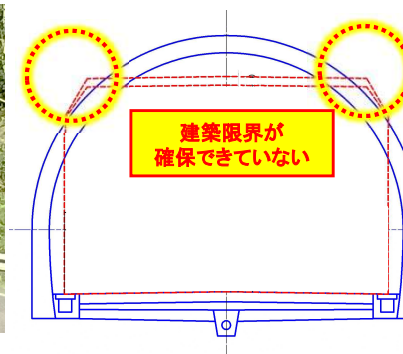
- ・赤名トンネル(R7新規事業化)の事業促進
- ・晴雲トンネルなどその他区間の新規事業化



○ 一般国道54号は、重要物流道路及び第一次緊急輸送道路に指定されているが、大雨や大雪による通行規制が幾度も実施されている防災上課題のある区間である。加えて、老朽化したトンネルが複数存在しており、安全、安心な通行を確保するための抜本的な対策が必要である。



■ 赤名トンネル・晴雲トンネル・殿河内トンネルにおいて建築限界(4.8m)が確保できていない



トンネル名	竣工年	年数
赤名トンネル	1964	60
晴雲トンネル	1964	60
殿河内トンネル	1980	44

#### 【赤名トンネル緊急点検】

令和2年12月には覆工コンクリートのはく落事象が発生。令和3年1月に約8時間30分間片側交互通行を実施し、緊急点検を行った。

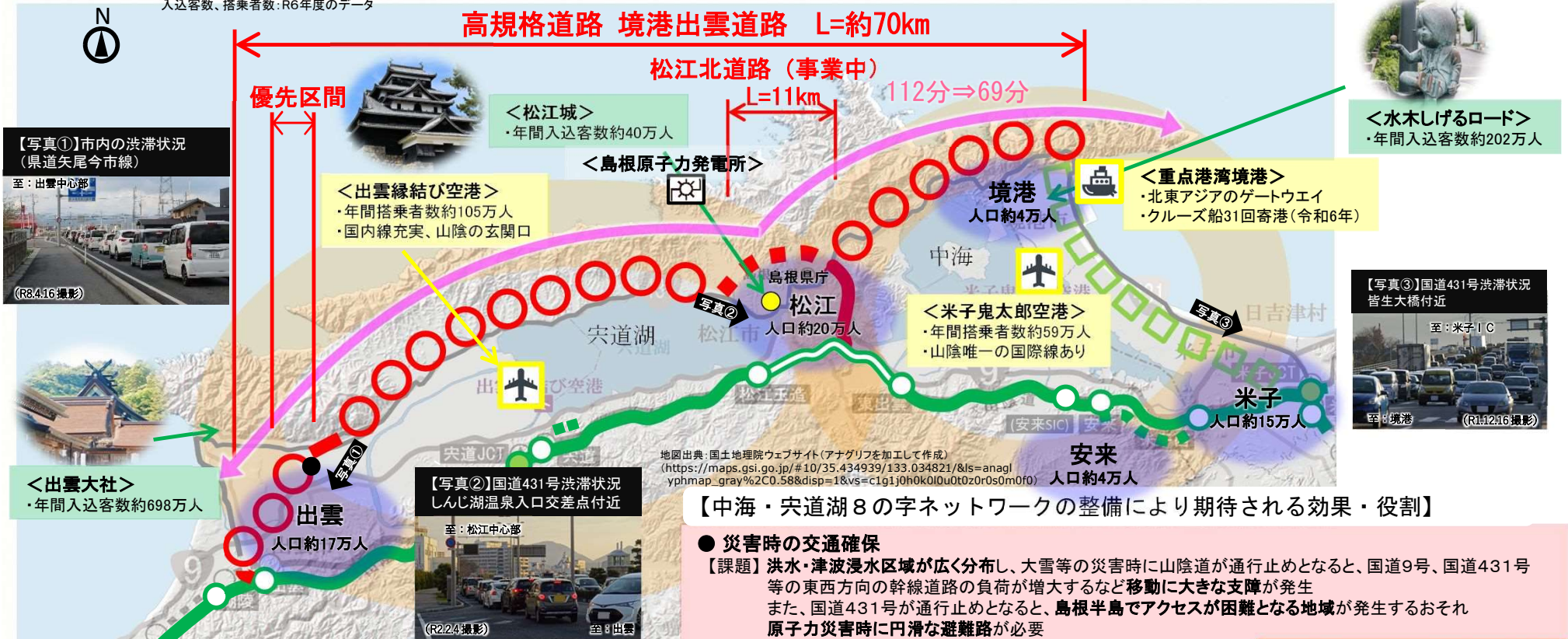


## 2.山陰道や境港出雲道路（8の字ルート）をはじめとする地方の道路整備の推進⑥

◆ 中海・宍道湖圏域(約60万人)を結ぶ“8の字ネットワーク”の一部を形成し、高規格道路のミッシングリンク※である「境港出雲道路」未着手区間の直轄事業としての早期事業化

注)人口:R2国勢調査  
入込客数、搭乗者数:R6年度のデータ

※防災・減災、国土強靱化に向けた道路の5か年対策プログラム(中国ブロック版)【令和3年4月】



### 【中海・宍道湖8の字ネットワークの整備により期待される効果・役割】

#### ● 災害時の交通確保

【課題】洪水・津波浸水区域が広く分布し、大雪等の災害時に山陰道が通行止めとなると、国道9号、国道431号等の東西方向の幹線道路の負荷が増大するなど移動に大きな支障が発生  
また、国道431号が通行止めとなると、島根半島でアクセスが困難となる地域が発生するおそれ  
原子力災害時に円滑な避難路が必要

【効果】災害時においても機能する強靱な高規格道路ネットワークの構築 安心して暮らせる環境の充実への貢献

#### ● 産業振興

【課題】中海・宍道湖圏域は、通勤・通学や物流などの企業活動において圏域内の結びが非常に強く、地域経済を支える重要な地域であるにもかかわらず、移動の速達性・定時性の確保、渋滞や事故の抑制が課題  
高速ICのアクセス性の低い圏域北側は工業団地の分譲率が低迷

【効果】新規企業立地等の促進、通勤圏の拡大による新たな雇用の創出

力強い産業圏域の形成  
・地産外商への貢献

#### ● ゲートウェイ強化

【課題】境港は北東アジアとのゲートウェイとして高いポテンシャルを有しているにもかかわらず、高速ICのアクセス性が日本海側重点港湾でワースト1位。米子空港・出雲空港も同様にアクセス性に課題

【効果】ゲートウェイ強化につながる港湾・空港のアクセス性の向上

#### ● 周遊観光促進

【課題】今後、クルーズ船の寄港、観光旅行が復調した際に、出雲大社等の魅力的な観光地の周遊観光を促進するためには、立ち寄り先及び観光地での滞在時間の拡大が課題

【効果】観光地間の移動時間短縮と定時性の確保による周遊観光の促進 多様な資源の継承・観光振興への貢献

### 産業づくり・地域づくりを支える

＜産業＞生産性の向上、地域資源の付加価値の拡大等  
＜地域＞住み続けるためのまちづくりの実現に向け、  
・必要となる都市基盤の連携  
・職業・教育・医療機会の確保  
・移住定住の支援 ・インフラの利活用

8の字ネットワーク整備による効果(約350億円/年)に加え、これをきっかけとした産業・地域の活性化(約500億円/年)により、約850億円/年の付加価値額の拡大を目指す

出典) 8の字ネットワーク整備による効果分析検討会 成果(令和5年8月)から

## 2.山陰道や境港出雲道路（8の字ルート）をはじめとする地方の道路整備の推進⑦

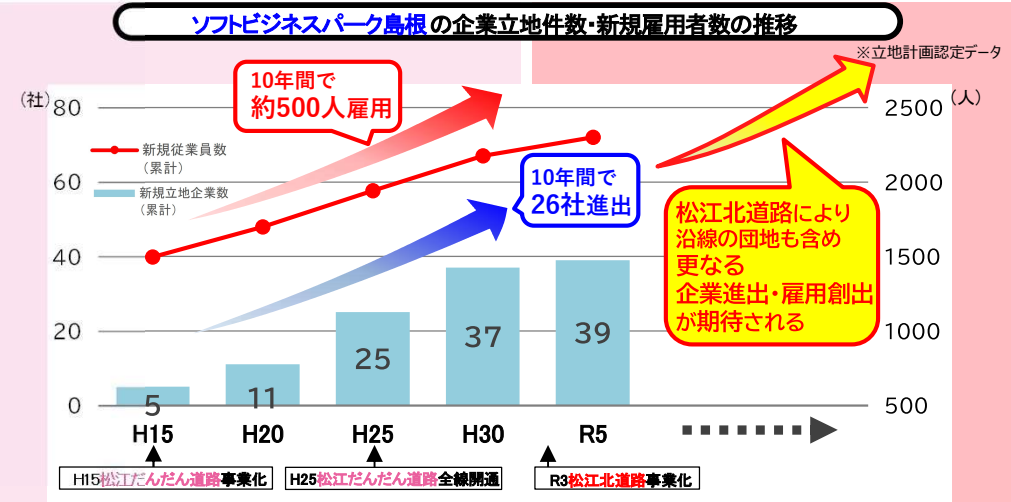
◆ 生産性向上と更なる企業進出・雇用創出を実現させる「境港出雲道路 松江北道路」の整備促進



松江だんだん道路 整備完了

松江北道路 事業中

R8~  
工事本格化



### 企業の声

企業進出 ソフトビジネスパーク島根

安来方面からも通勤しやすくなること  
などから、立地を決めた。  
従業員の約7割が、橋南地区から通勤  
している。

人材確保 朝日ヒルズ工業団地

混雑する市街地を通過して通勤するの  
で従業員採用面でハンデを感じている  
が、松江北道路によりその解消に  
期待している。

### ソフトビジネスパーク島根 30分到達圏域



進出企業の雇用が課題

南北移動アクセス性向上 到達圏域 拡大

広域からの人材確保が可能に

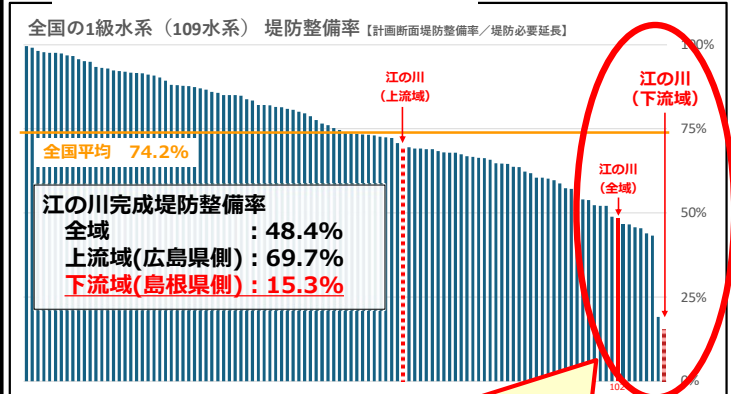
### 3. 江の川下流治水事業の推進

- ◆ 江の川下流域では、平成30年7月・令和2年7月豪雨に続き令和3年8月大雨により3年余りの間で3度の家屋浸水被害が発生
- ◆ 沿川の住民が安心して住める地域となるよう、「治水とまちづくり連携計画(江の川中下流域マスタープラン)」に基づき事業を推進し、流域治水による対策を加速化させること
- ◆ 直轄事業と連携し一体的かつ早急な整備が必要な矢谷川をはじめ、県が管理する江の川支川の整備に必要な予算を配分すること
- ◆ 防災集団移転促進事業については、地域の合意形成を経て策定された事業が進むよう、十分な予算を確保し、必要な予算を配分すること
- ◆ 排水ポンプ車の効果的な運用や、デジタル技術の活用による樋門操作の省力化を図るなど、内水対策への支援の取組を強化すること

江の川下流域 被害状況 (平成30年7月～令和3年8月)

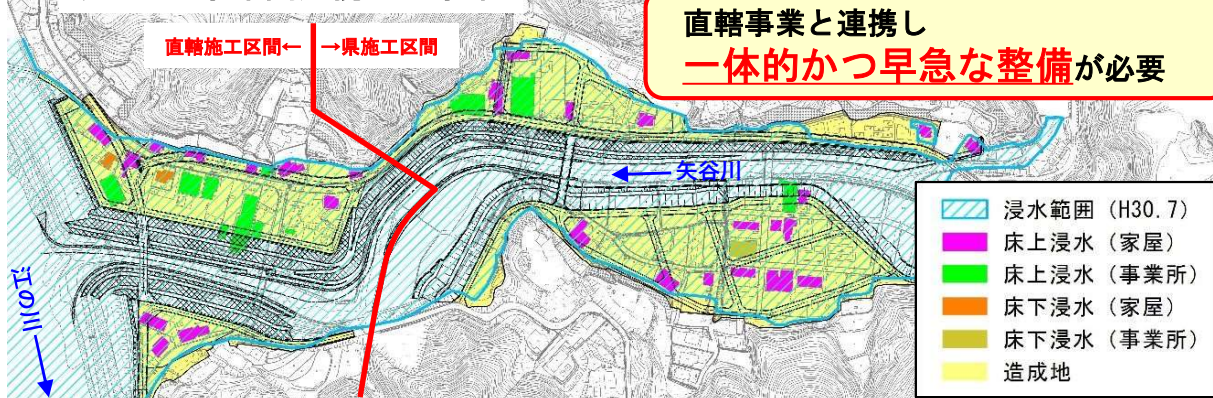


堤防整備率 (R7. 3末時点)



- 江の川水系の完成堤防整備率は全国の一級河川109水系中**102位**
- 下流域(島根県側)の整備率は**最下位**に相当

矢谷川 事業間連携河川事業



田野地区 防災集団移転促進事業



## 4. 斐伊川・神戸川治水事業の推進

- ◆ 流域全体の治水安全度確保に向け上流部のダム、中流部の放水路は完成
- ◆ 下流域の安全度確保のためには大橋川改修と中海湖岸堤整備の加速化が必要
- ◆ 気候変動による降雨量増大で流下能力不足が懸念される斐伊川河口部の計画的な河道掘削が必要

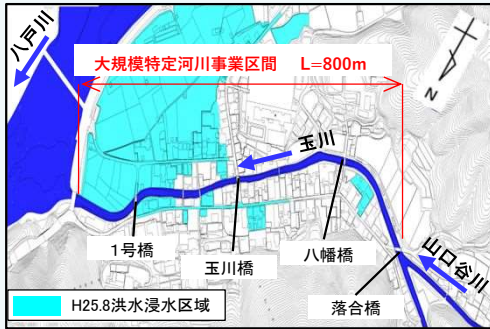


# 5. (1) 大規模特定河川事業の推進

◆ 大規模特定河川事業について、計画的・集中的に事業を推進するため、必要な予算を配分すること

## 玉川大規模特定河川事業

玉川は、江津市桜江町内を流下する八戸川の支川であり、平成25年豪雨による洪水で浸水被害が発生した。このため補助事業により、河川の拡幅及び橋の架替などを集中的に実施し、治水安全度を早期に向上をさせる。

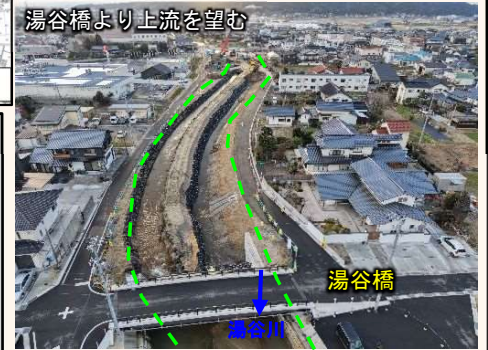
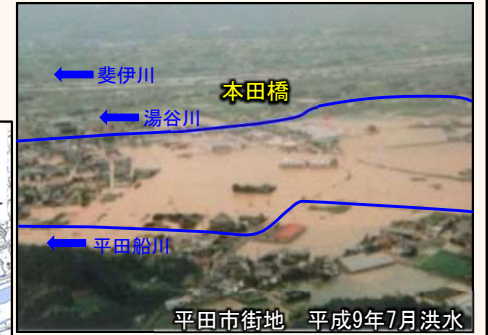


## 大規模特定河川事業位置図



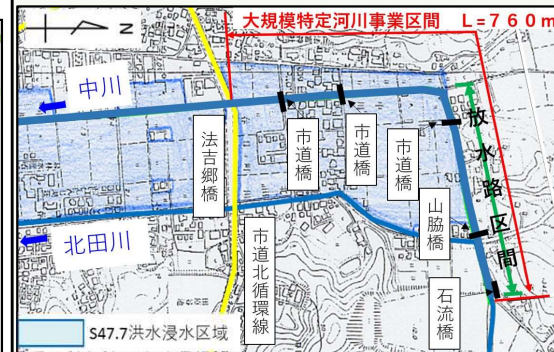
## 湯谷川大規模特定河川事業

湯谷川は、出雲市内の住宅密集地を流下しており、河川が狭小なため平成9年豪雨による洪水等で広域にわたり甚大な被害が発生した。このため補助事業により、河川の拡幅及び橋の架替などを集中的に実施し、治水安全度の向上を図る。



## 中川大規模特定河川事業

中川は、松江市街地の中心部を流下しており、河川が狭小なため毎年のように浸水被害が頻発し、昭和47年豪雨のほか近年では平成18年にも甚大な被害を被っている。このため補助事業により、河川の拡幅及び放水路の整備を実施し、流域全体の治水安全度を早期に向上させる。

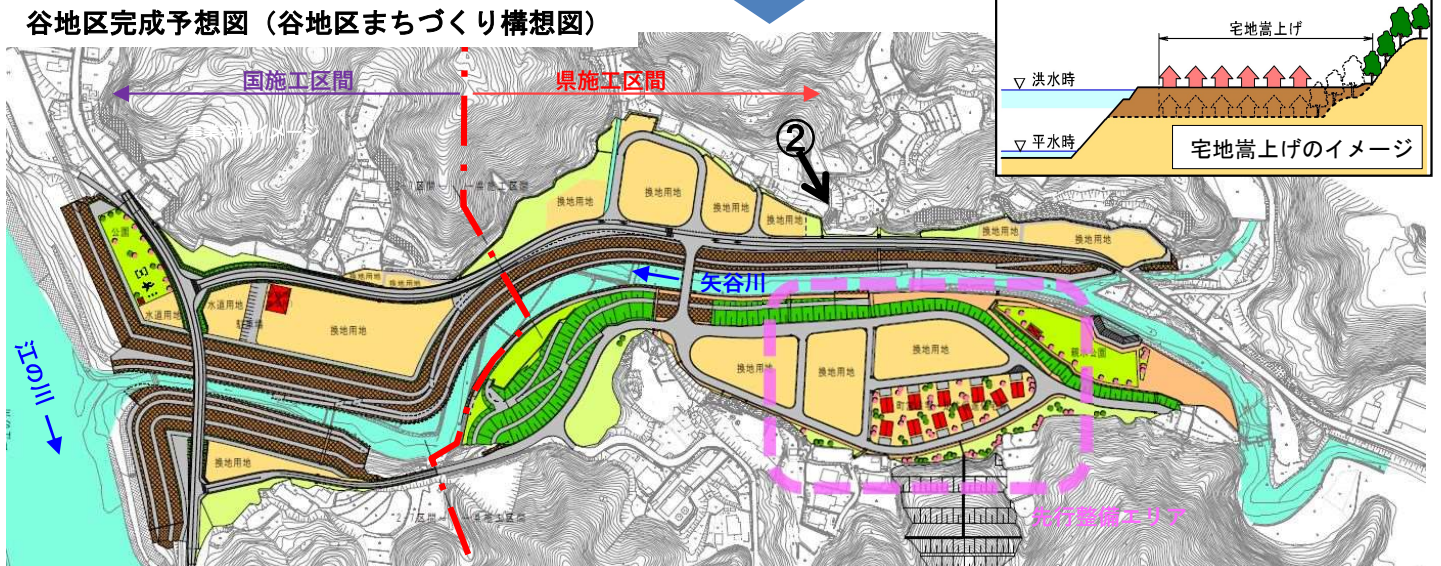
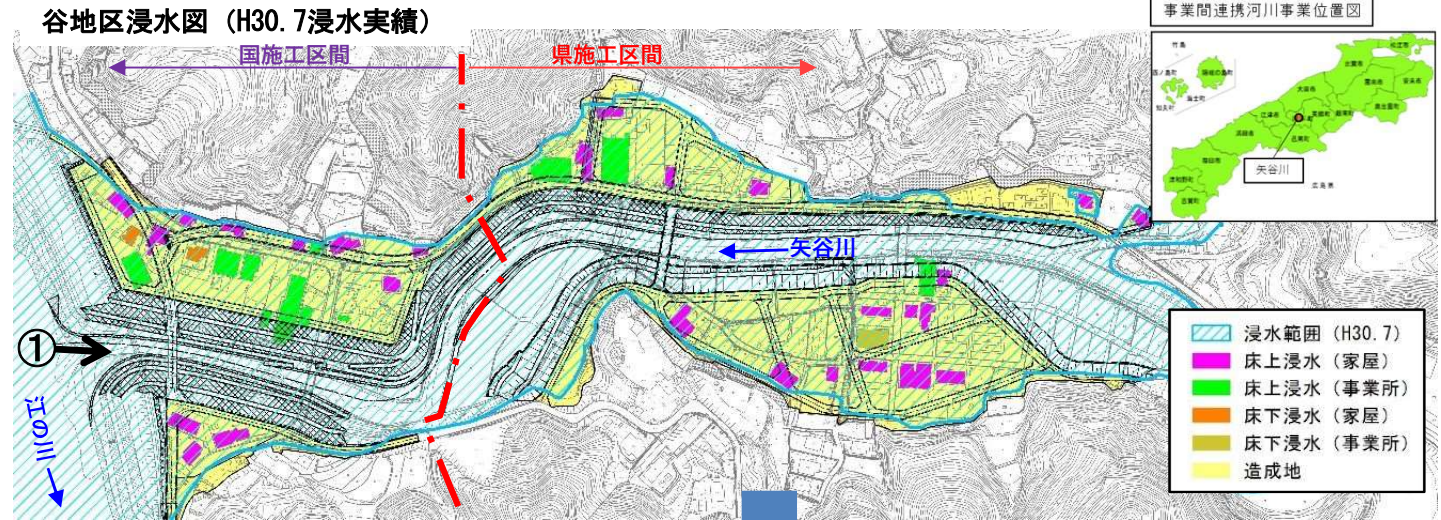


## 5. (2) 事業間連携河川事業の推進

◆ 事業間連携河川事業について、本支川で連携して事業を推進するため、必要な予算を配分すること

### 矢谷川事業間連携河川事業

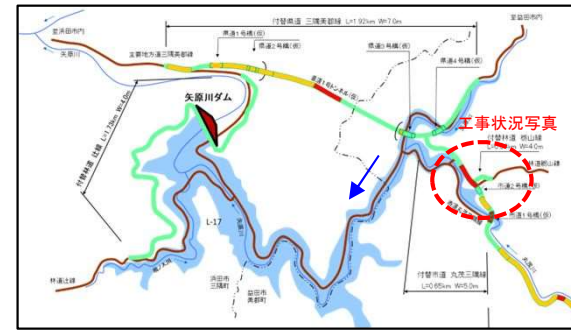
矢谷川は、川本町谷地区を流下する江の川の支川であり、平成30年、令和2年豪雨（江の川バックウォーター）による洪水で立て続けに浸水被害が発生した。このため補助事業により、江の川河川整備及び川本町のまちづくり整備と連携し、宅地の嵩上げ及び橋の架替などを集中的に実施し、治水安全度を早期に向上をさせる。



# 5. (3) 矢原川ダム事業

◆ 流域住民の安全・安心を早期に確保するため、ダム事業の推進が必要

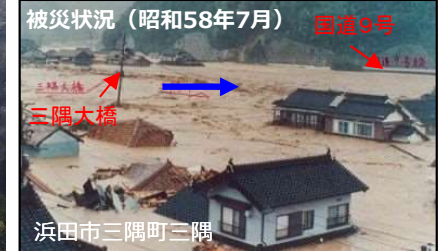
## 矢原川ダム【生活再建対策推進】



◇引き続き、用地取得、付替道路工事などを推進する



昭和58年7月 梅雨前線豪雨 被害概要  
 ・日雨量：365.6mm/day  
 ・床上浸水895戸、床下浸水131戸、  
 全壊749戸、半壊305戸、農地浸水646ha



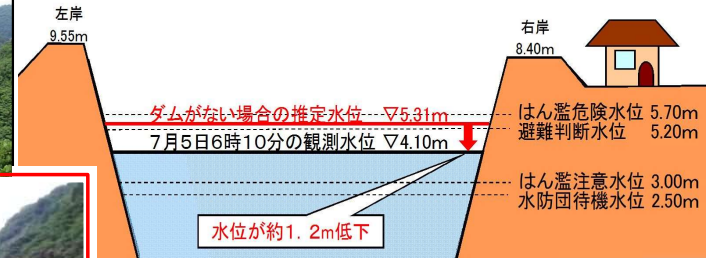
【参考】 県内初の「大雨特別警報」が発表された平成29年7月豪雨において御部ダムが洪水調節効果を発揮

※ダム上流域で流域平均総雨量370mm（時間最大41mm）を記録

御部ダムでは最大約967m<sup>3</sup>/sの流入に対して、  
下流河川への流量を最大で約651m<sup>3</sup>/sカット

御部ダムで上流からの流木を捕捉し、  
下流への流出を防止

三隅川の三隅大橋水位観測点  
付近で約1.2mの水位低下



## 5. (4) 土砂災害から人命を守る総合的な対策の推進

- ◆ 激甚化・頻発化する土砂災害から人命を守り、安全で安心して生活できる地域づくりを実現するため、個別補助事業(事業間連携砂防等事業)等の土砂災害対策予算を十分に確保すること
- ◆ 保全人家戸数やがけの高さ等の防災・安全交付金の採択基準を緩和すること

H30年7月豪雨で被災した広島県と同じ真砂土地帯が広く分布。土砂災害警戒区域は全国で3番目

補助・交付金の採択にならない箇所への整備は遅れている

まだ、未整備箇所が多く存在。対策予算の確保が必要

### 土砂災害警戒区域指定状況

2025年12月末時点

順位	県名	土砂災害警戒区域	土砂災害警戒区域		
			土石流	急傾斜地の崩壊	地すべり
1	広島県	47,878	16,933	30,828	117
2	長崎県	38,598	5,672	31,723	1,203
3	島根県	32,210	13,277	18,209	724
4	長野県	27,361	6,736	19,105	1,520
6	山口県	25,725	9,871	15,524	330
25	岡山県	12,753	6,773	5,712	268
40	鳥取県	6,234	2,617	3,497	120
	全国	708,062	220,536	471,135	16,391

### 土砂災害要対策箇所 整備状況

全体	箇所数: 5,889箇所	整備率20%	1,156	4,733
補助・交付金	箇所数: 3,876箇所	整備率25%	957	2,919
県単	箇所数: 2,013箇所	整備率10%	1,814	199

※例) 急傾斜事業  
がけ高10m以上かつ人家戸数10戸以上  
がけ高5~10m未満人家戸数5~9戸

■ 整備済 ■ 整備中・未整備

### 個別補助(事業間連携砂防等事業) 浄光寺谷川(大田市川合町)



### 個別補助(事業間連携砂防等事業) 中遠田地区(益田市遠田町)



### 令和3年7月豪雨時の被害状況

#### 【被害状況】

7月12日豪雨(145mm/24h、60mm/h; 上山雨量観測所)が発生

- ◆ 土石流により家屋が被災
- ◆ 家屋の1階部分が埋塞

#### 令和3年7月豪雨 土石流により被災(雲南市吉田町; 三谷川支川)



令和3年7月12日の雨量レーダー

家屋1階部分が埋塞

### 令和3年7月豪雨時の施設効果

#### 【対策施設の効果】

7月7日豪雨(206mm/24h、79mm/h; 万田雨量観測所)が発生

- 砂防堰堤が、上流から流出した土砂を捕捉し、下流の人家35戸を救う

#### 令和3年7月豪雨(出雲市国富町; 丹堀川)

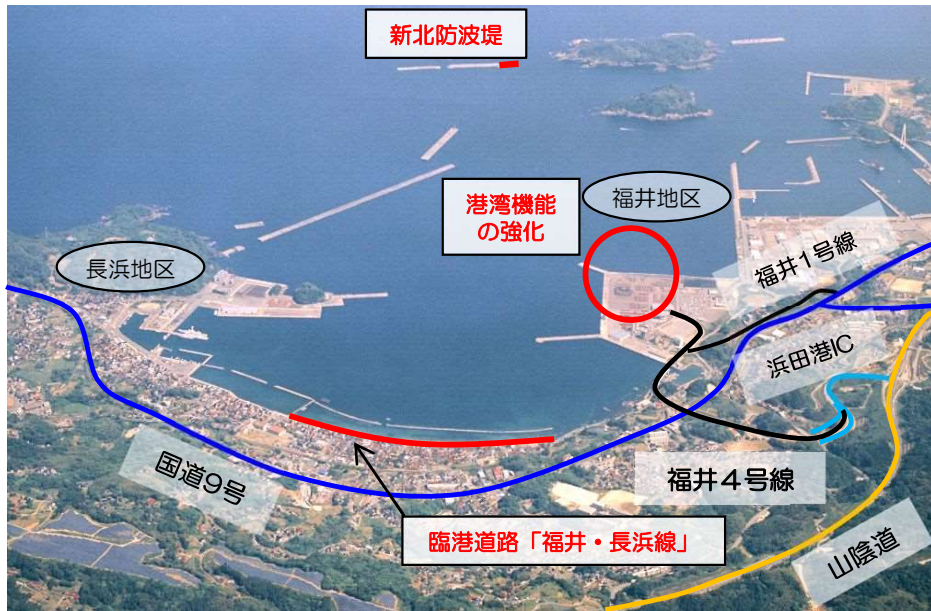


砂防堰堤による土砂捕捉

人家35戸を保全

# 6. 浜田港の機能強化

- ◆ 荒天時における港湾稼働率の向上を図るため、「新北防波堤」の整備を推進すること
- ◆ 福井地区において、見込まれる船舶の大型化に向けた港湾機能の強化を推進すること
- ◆ 臨港道路「福井・長浜線」の整備が着実に進められるよう、必要な予算を配分すること
- ◆ 令和7年4月に公表した港湾脱炭素化推進計画の実現に向け、継続して財政的支援および技術的助言を行うこと



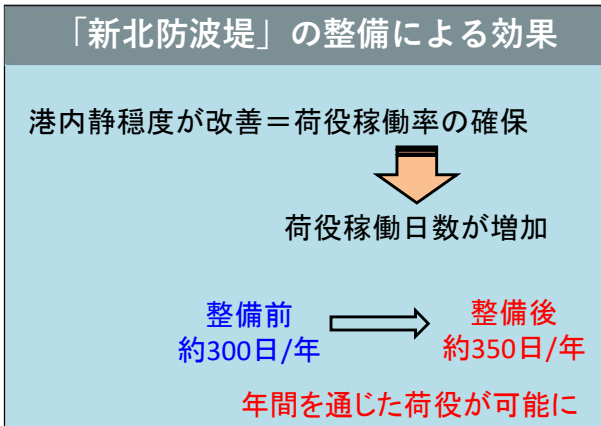
## ◀ 船舶大型化の動向 ▶

- 浜田港以東の地方港に就航する中韓ダイレクト航路において、**80%の船舶が1000TEU型に大型化**  
(現在就航している船社の700TEU型は全て船齢19年を経過)

**船舶大型化に向けた港湾機能の強化が急務**

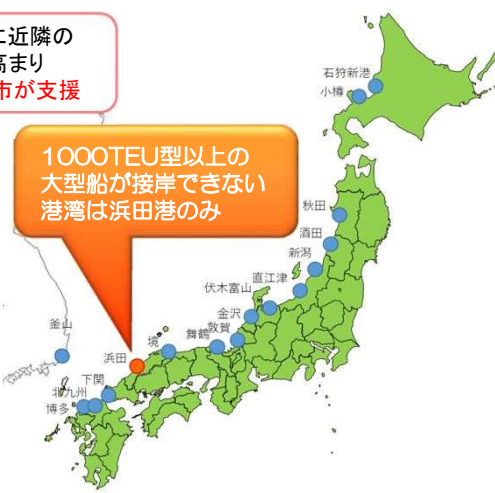
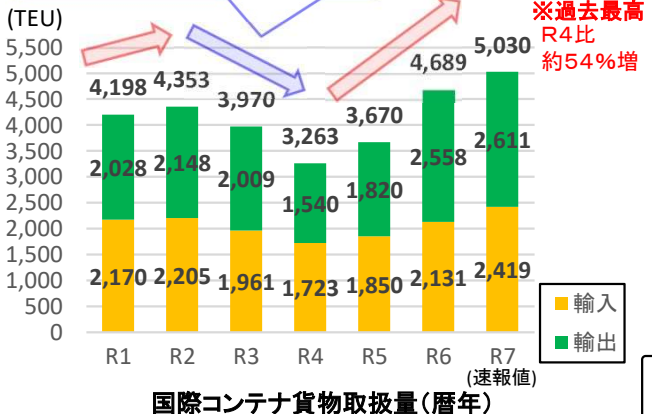
## ◀ 浜田港を取り巻く状況 ▶

- 日本海側港湾で1000TEU型の大型船が接岸できないのは浜田港のみ
- 国際定期コンテナ航路  
1社が使用船舶の1000TEU型への大型化により、寄港休止 (R3.3～: 2→1便/週)
- 物流2024年問題を背景に近隣の港湾への利用ニーズが拡大  
⇒ 令和7年はR4年比で約54%増加し、過去最高を記録



寄港休止後の1便化による荒天等運航不順のリスク回避  
⇒ 一部貨物の他港利用が常態化

物流2024年問題を背景に近隣の港湾への利用ニーズの高まり  
⇒ 浜田港シフト促進を県市が支援



港名	水深
石狩新港	10.0
小樽港	12.0
函館港	12.0
秋田港	13.0
酒田港	14.0
新潟港	12.0
直江津港	10.0
伏木富山港	12.0
金沢港	10.0
敦賀港	14.0
舞鶴港	14.0
境港	14.0
下関港	12.0
北九州港	15.0
博多港	15.0
浜田港	8.5

コンテナターミナルを有する日本海側の港湾

「日本の港湾2020」より  
コンテナターミナルの最大水深を抜粋

# 7. 県内3空港の安全で安定的な運航の確保

◆ 県内3空港の老朽化対策および滑走路端安全区域(RESA)の整備を着実に進められるよう必要な予算を配分すること

- 老朽化対策
  - ・空港毎に定めた維持管理・更新計画に沿って、滑走路舗装等の計画的な改良
  - ・劣化した航空灯火の更新にあわせ、令和12年度までに灯火のLED化
- 滑走路端安全区域(RESA)の整備
  - ・令和8年度までに事業着手し、整備していく



# 8. 上下水道の広域化、強靱化に対する財政支援

- ◆上下水道の災害・事故に対する安全度を向上させるため、老朽化施設の更新や耐震化を進めるための財政支援の充実・拡充を図ること
- ◆水道事業の多様な手法による広域化を推進するため、経営広域化を伴わない広域連携の取組についても、国庫補助の対象とすること  
また、広域化に伴い必要となる計画策定への重点的な財政措置や、専門的な検討を行うための財政支援や人的支援の拡充を図ること
- ◆下水道事業の基盤強化のため、広域化・共同化、水の官民連携の推進に対する財政支援の充実を図ること

## 上下水道施設の強靱化のため改築・更新、耐震化

### 【管渠の老朽化による漏水・陥没事故】



令和5年3月発生  
出雲市長浜町



令和7年8月発生  
松江市黒田町



### 下水道管渠の老朽化(央道湖流域下水道)

- ・標準耐用年数(50年)を経過する管は5年後に**10.7%**、10年後には**40.8%**へ
- ・全延長74.7kmのうち直径2m以上の管延長5.6kmすべてが10年後には標準耐用年数(50年)を経過

### 水道施設の耐震化の遅れ

- ・災害時の安定供給が課題
- 管路の更新状況(令和6年度)**

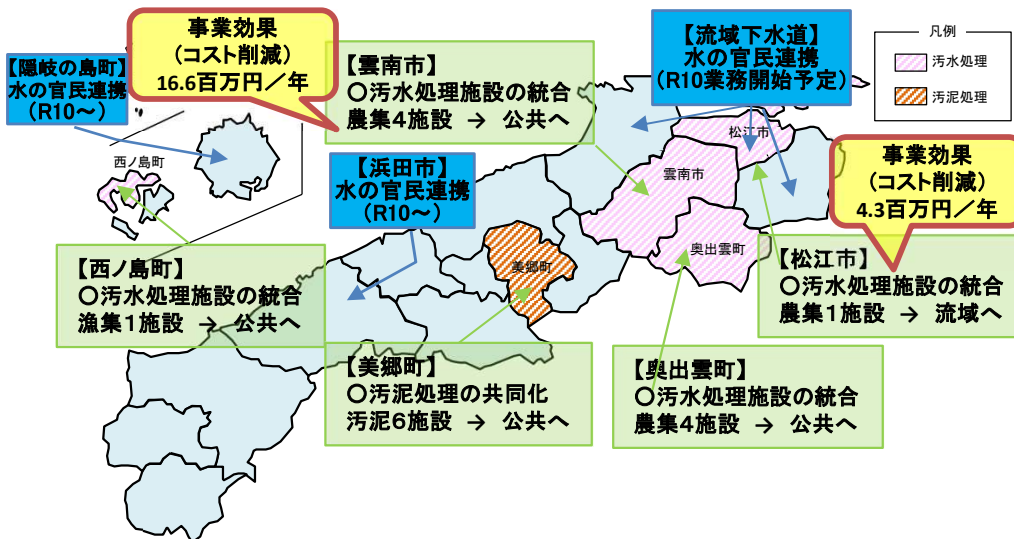
管路の名称	管路延長 (km)	管路延長			耐震適合率 (%)
		法定耐用年数(40年)を超えた管路延長(km)	耐震性のある管路延長(km)	当該年度に更新した管路延長(km)	
導水管	144.29	30.73	49.71	0.35	34.4%
送水管	803.06	156.80	438.77	12.52	54.6%
配水管	8929.67	2381.74	1,612.26	64.03	18.1%

出典：R6年度「公営企業会計決算の状況」、島根県独自調査

- ・送水管の耐震化適合率は50%を超えたが、導水管、配水管は50%以下
- ・基幹管路(※)の耐震適合率(R6):30.4%  
※導水管、送水管及び配水管本管(配水管のうち、給水管の分岐のないもの)

### 下水道事業の基盤強化のため広域化・共同化、水の官民連携の推進

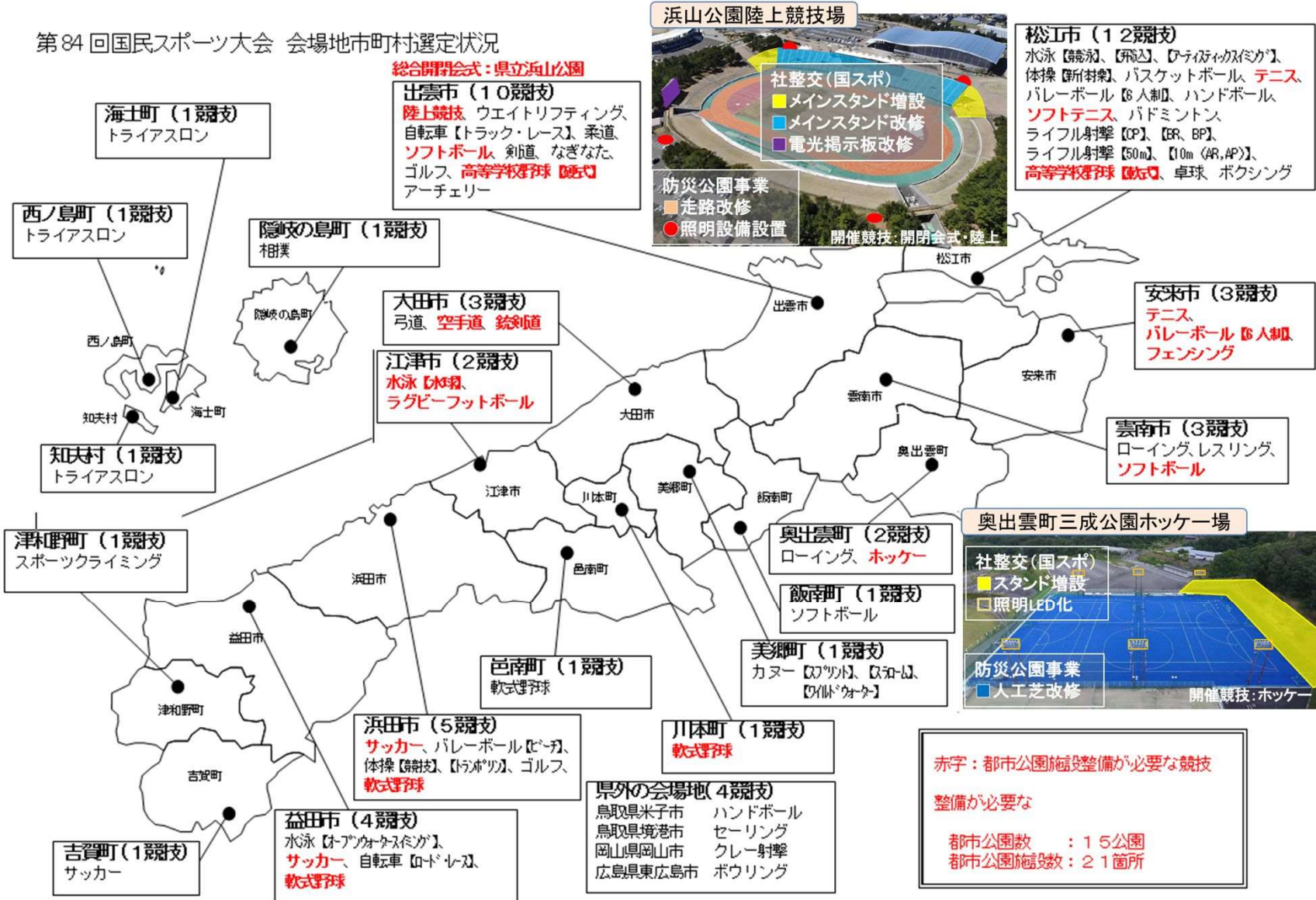
#### 広域化共同化：5市町、水の官民連携：流域・2市町 令和8年3月現在



# 9. 国民スポーツ大会等の開催に向けた都市公園施設の整備の推進

- 県・市町の都市公園施設整備が本格化するため、資材高騰等を踏まえた**予算総額を確保すること。**
- 令和11年度開催のリハーサル大会までに施設整備の完了が必要なため、**補正予算を含めた適時の予算配分**をすること。

第84回国民スポーツ大会 会場地市町村選定状況



## 中東情勢の変化等を踏まえた建設事業の予算上の対応等について

### 1. 資材調達状況

中東情勢の変化等の影響により、石油やナフサを原料とする資材が不足するなどの状況が生じており、県が実施する土木工事、営繕工事に必要な資材の供給が制限される、価格が高騰するなどの支障が生じている。

#### 【主な資材の調達状況】

種類	概況
アスファルト合材	4月に2～3千円/tの値上げ。
塗料、塗料用シンナー	大手塗料メーカーがシンナー関連製品の値上げを発表したことを契機として、仮需を含めた注文が殺到し、調達が困難。
断熱材、軽量盛土用発泡ウレタン	4月から40%以上値上げかつ調達が困難。
硬質ポリ塩化ビニル管類	販売価格が5月から大幅に値上げ。供給制限と価格改定により仮需が発生しており、調達が困難。

### 2. 建設事業の実施における対応状況

#### (1) 契約済の工事

- 資材価格や労務費が急激に高騰した場合は、契約書のスライド条項（※）を適用し、受注者からの請求により契約額の変更を行う。（予算額の範囲内で対応）

※賃金水準、あるいは物価水準の変動により請負代金額が不適当となった場合に、請負代金額の変更が可能な制度

- 主要資材の調達が遅延し、施工できなくなった場合は、工期の延期や工事の一時中止を行う。（調達が見通せない場合は、受発注者で協議の上、工事の打ち切り精算を検討）

#### (2) 今後発注する予定の工事

- 主要資材の調達の見通しを注視しながら発注をしていく。

### 3. 予算額の超過が見込まれる場合の対応

- 全体事業期間を延長し、今年度実施する事業量を調整することが可能な工事については、予算の範囲内で実施することを基本とする。
- 期限が決まっているなどの事情がある工事については、今年度必要な事業量が確保できるよう予算の増額の必要性について検討する。

## 浜山公園野球場改修工事の完成について

令和12年に開催を予定している「島根かみあり国スポ」の会場となる浜山公園野球場の改修工事が、5月27日に完成する予定

### 1. これまでの改修工事

令和2年6月 メインスタンド改修工事完成

令和6年2月 ナイター設備更新工事完成

### 2. 今回の改修工事

グラウンド面積	: 12,300㎡→13,700㎡
両翼拡張	: 91m→98m
中堅拡張	: 120m→122m
内野スタンドベンチ新設	: 3082席(新設) ※従来は芝生席
ブルペン新設	: 1・3塁側に各2名投球可能(新設) ※従来はファールゾーン
収容人数	: 12,000人(変更なし)
総事業費	: 約7億円

このたびの工事完了により、公認野球規則の推奨値を満足する施設となる。

※公認野球規則の推奨値～両翼97.5m以上、中堅121.9m以上



### 3. 今後の予定

- ・5月29日完成記念セレモニー開催  
(主催：島根県立浜山公園野球場改築整備促進期成同盟会)
- ・5月30日春季中国地区高等学校野球大会
- ・7月～全国高等学校野球選手権島根大会(主会場)

## 大規模下水道管路の全国特別重点調査の結果について

### 1. 経緯

- (1) 令和 7 年 1 月 28 日 埼玉県八潮市で下水道管路の破損に起因する道路陥没事故が発生
- (2) 令和 7 年 3 月 18 日 国土交通省は道路陥没事故の再発防止のため「全国特別重点調査」の実施を自治体に要請
- (3) 令和 7 年 9 月 17 日 国ホームページで全国の調査結果を公表（優先箇所）
- (4) 令和 8 年 4 月 21 日 国ホームページで全国の調査結果を公表（優先箇所以外）

### 2. 県流域下水道の対象箇所

重点調査箇所：設置から 30 年以上経過した内径 2 メートル以上の管路 【5.9km】

優先箇所：重点調査箇所のうち過去の調査で腐食が確認された未対策箇所 【4.2km】

優先箇所以外：【1.7km】（今回公表）



### 3. 調査結果

自走式テレビカメラによる管路内調査 【速やかな対策が必要な損傷等なし】

調査区分	調査延長	緊急度	要対策延長	空洞調査
優先箇所	4.2km	II	1.1km	空洞なし
優先箇所以外	1.7km	II	1.1km	空洞なし
合計	5.9km		2.2km	

※要対策延長は損傷が確認された箇所の積上延長

緊急度区分	対応内容
I	速やかな対策（原則 1 年以内）を実施
II	応急措置を実施した上で、5 年以内に対策を実施
I・II 以外	-

### 4. スケジュール

令和 8 年 5 月～ 対策方法検討のための設計業務発注

※対策方法等の詳細については、国の動向を踏まえ対応する。